

ふるさと歴史アラカルト

中津居館跡① 遺跡の立地と概要

中津居館跡は岩国市楠町三丁目にある中世に築かれた居館の跡です。居館とは有力者の屋敷のこと、居館の主や家族などが日常生活を送ると同時に支配地域の政庁の役割も備えていました。一般的に中世の居館は土塁や堀を周囲に巡らし、内部に主殿、会所、馬屋、台所、庭園などの施設を配置しました。

中津居館跡の現地には、今も居館を囲む土塁の基底部幅15m、20mがほぼ一周残っており、土塁の外周は東西長約120、南北長140m、南北長130、170m、面積は約2万㎡に及び、守護大名大内氏の築いた居館（山口市）に匹敵する規模があります。

現地に堀の痕跡を確認することはできませんが、堀の有無を確認するために土塁の外側で行った発掘調査では、現地表面より約2m下で人工的な掘り込みの痕跡が確認され、掘り込みの底から土塁の裾に向って石敷きも確認されました。

また土塁は居館周辺の砂や河原礫を

用いて盛土し、外側に近隣の山から運び込んだ人頭大の花こう岩を大量に用いて護岸を思わせる強固な構造で築かれています。このことから、居館が築かれた当時は土塁と共に堀が巡っていた可能性があり、非常に大規模な土木工事を伴って居館が築かれたことが分かっています。

中津居館跡が立地する錦川河口周辺には、中世にこの地方を治めた弘中氏が歴代宮司を務めた白崎八幡宮（山手町）、弘中氏の居城と伝わる亀尾城（錦見）、さらに弘中氏の菩提寺の喜楽寺（門前町）などが立地しており、中津居館跡もまた、記録には表れないものの弘中氏の居館とする説が有力で、中津居館跡が中世の岩国地域の中心的な場所に立地し、政治・流通などの面で拠点的作用を果たした可能性が考えられます。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

中津居館跡の位置



2月28日(日)～5月8日(日)まで、岩国徴古館で「中津居館跡発掘調査報告展」を開催します

岩国市 人口・世帯

人口 139,966 人【前月比 - 88人】 男性 66,325 人 女性 73,641 人

世帯 66,402 世帯【前月比 - 36世帯】 ※外国人人口を含む（平成28年1月1日現在）

交通事故発生件数 12月分事故件数 38件(509件) 死者数 1人(4人) 傷者数 43人(585人)

※高速道路発生分を除く

※（ ）内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337